

# 海ごみをなくすために

## ～「こども海ごみ探偵団」保津川調査実施～

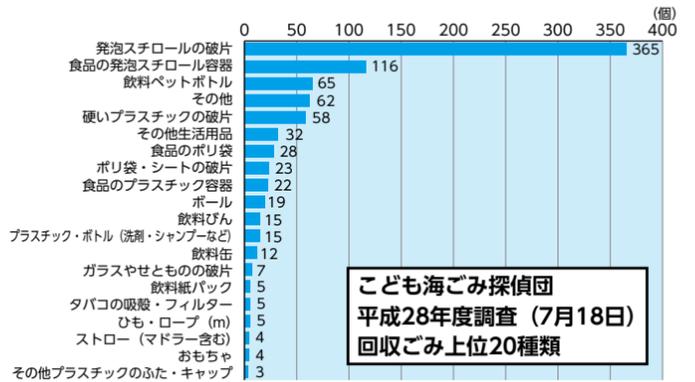


▲保津川の清掃・調査活動を行った「こども海ごみ探偵団」の皆さん

海のないまち亀岡に暮らしている私たちにとって、海のごみは全く関係のない問題ではありません。世界中の海を汚すごみの多くは、内陸部で発生し、川を通じて流れ出しています。地球表面の約7割を占める海の良い環境を保つためには、海岸などに漂着したごみを回収するだけでなく、川と海のつながりを理解し、川からごみの発生抑制を進めていく必要があります。

この日、回収されたごみの中で最も多かったのが発泡スチロールの破片で365個、続いて食品の発泡スチロール容器が116個、飲料ペットボトルが65本。他にも多くの種類の破片が大量に確認され、総量で土のう袋40袋分にも及びました。調査は毎回、場所を変えて行うため単純に比較はできませんが、今回は大型ごみは少なかつた一方、生活の中で排出される小型で軽量なごみが目立ちました。

これらのごみが海まで流れると、環境への影響は深刻なものになります。中でもプラスチックごみは、海に流れ出ると水流による浸食や紫外線などの作用により細かく砕かれます。これらは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、漂い続けることによる海の生態系への影響が懸念されています。地球規模での環境保全を進めていくためには、海を汚さないことが必要であり、海から遠く離れた川の上流でごみを流さないように、またごみが流れて細くなる前に食い止めるように積極的に取り組んでいくことが重要です。未



来のために、誰もが日常生活の中で、地域の美化が地球環境の保全につながることを意識して、自分たちができるところに取り組んでいきましょう。

## みんながサポーター!! がんばれサンガ!!

### 亀岡市応援デーを開催

7月31日、京都サンガF.C.ホームゲーム(セレッソ大阪戦)において、「亀岡市応援デー」を開催しました。

試合には、市民観戦バス利用者330人をはじめ、多くの市民の皆さんが、会場となる西京極総合運動公園陸上競



▲声援を送るサポーターの皆さんと桂川市長

技場兼球技場(京都市右京区)に駆けつけました。観客席では、桂川市長がサポーターや市民の皆さんへ「みんなで見守りを一つにして、京都サンガを勝利に導きましょう」と声援の音頭を取り、選手に熱い応援を送りました。

また、競技場外のフレンズスクエアでは、亀岡の特産品の販売や、観光パンフレットを配布する亀岡市PRブースを出展。試合にいられた皆さんに亀岡の魅力を発信しました。

試合は、リーグ上位を争う両チーム同士が闘志をぶつけ合う攻防の中、後半に京都サンガF.C.が一挙3得点。ところが、セレッソ大阪も怒涛の追い上げを見せ、惜しくも引き分けに終わりました。



▲亀岡の特産品がいっぱいのPRブース

亀岡市は今後も、京都サンガF.C.のホームタウンとして、市民の皆さんと共に応援してまいります。来シーズンのJ1昇格を目指し、みんな

## 移動式の炉「七輪」

第三百七十五回  
亀岡ちよと昔の道具箱⑤  
文化財めぐり

私たちを取り巻く生活環境は、昭和の時代になって、全国的にガスの普及や熱交換率の高い電磁調理器の登場と共に、生活様式も大きく様変わりをしました。食事を作ったりする台所も、土間などに設けられた流し場や竈・いろりは、シンクの流し台や電気炊飯器、火鉢・七輪は、オーブントースターやグリルといったように便利な用具に変わりました。七輪は、軽くてコンパクトなことから、簡単に移動させることができる便利な調理用の炉として普及しました。その名の由来も、ものを煮るのに七厘ほどの炭で安価にできることから「七厘」と呼ばれ、円形のもが多かったことから「七輪」となったとも言われます。

七輪は、乾燥した薪や木片を紙や藁、乾燥松葉等を導燃材として火熾しして、さらに豆炭や木炭などに着火させ、団扇で送風することによって火力をあげるなど火の調節をしながら炊飯や煮炊き、焼き魚等の調理に用いられました。さて、暑かった夏も、立秋を過ぎると、朝夕はめっきり涼しくなり秋の訪れを感じます。そんな秋の食卓をいじるもの一つに秋刀魚があります。脂のつった秋刀魚を七輪で焼くと、脂が炭火に落ちて、もうもうと煙が立ちこめました。屋外に持ち出した七輪で秋刀魚を焼く光景は、秋の風物詩でもありました。



▲便利な調理用の炉「七輪」

七輪は、赤外線放射量も多く、熱効率が極めて高いことから、焼き鳥や鰻の蒲焼き、焼き肉など特性を活かした利用の仕方が形を変えながら今も息づいています。

(文化資料館)